

付録：各説明概念の定義と具体例：教師の悩み・思い・ジレンマ（研究課題 1）

概念名	定義	具体例（ヴァリエーション）
教科書が難しい	教科書の英文が、進度が進むにつれて難しくなっていく。すると教科書の内容理解のために時間を取られすぎてどうしても英語で授業をすることが難しくなってくる。	（使用している教科書が）正直ちょっと難しすぎて、うん。その英語の内容をパラフレーズしたもので oral introduction する、それをもとに生徒と基本的なところの理解からすすめて、で、後の細かいところの解釈を日本語で確認しようかと当初思っていたんですが、もう最初からね、 あまりも語彙構文のややこしさに、そのアウトラインを取る、英語でコミュニケーションとりながらアウトラインを取ることが段々きつくなっている。ですから理解の段階、それではかなりもう日本語中心になってしまっています。 （教師 C：高校）
テストの結果に反映されない	英語で授業を行うことを意識しつつも、定期試験等の点数を見たときに、理解できていない箇所、定着していない箇所、誤りを犯している箇所に焦点が当たっている。コミュニケーション活動と定期考査の結果とのジレンマ。	特に 1 年生ってということもあって、1 学期はやはり英語中心でっていう風な意識があり、まあその代わり予習はきちんと英語でさせること、それから、最後に音読シートっていう形で和訳を渡すっていうことで、はじめのうちはやはり英語中心で進めていったんですが、教室内のクラスルーム English と、最初 oral introduction とか、あとはまああの、ポイントをつかむようなそういうワークシートを作って、それを使って内容理解をしていくっていうようなことをして日本語の解説はなるべく加えないっていうことをしていたんですが、それでやはりちょっと 例えば、考査で測ってみると、結局あまり分かっていなかったりであるとか、細かい部分が理解できていないとか 、あるいは考査の作り方も色々あると思うんですけども、和訳は分けているんだけど、別にそのある程度の確認がきちんとされていないっていうことで、間違えたまま、日本語を理解していたりっていうことがあって、 かなりこう定着が悪いっていう状況で、まあそれこそ普通科でその模擬試験とか見ても、あまりそういったことが定着されていないっていうことが結果としてでできました。 （教師 D：高校）
ゆれる思い	英語で授業ができるために色々工夫していても、うまくいかないことが続くと、心が折れてしまう。また、同僚の先生方とスタンスが違っていると、自分のスタンスに疑問を持つこともある。	ドリル的な活動とか、形式的な面も増えてくるし、頭の中で実はそっちの方が実は力つくんちゃうのとか、思ってる部分もある。 けど、今さらそんなことしたくないなっていう個人的な思いだけでやっている気もするから。（中略）スピーキングのテストが実際にはないし。いわゆる入試とかで。授業中は評価するけど。と、この子達は楽しんでやっているし、慣れてくるといい雰囲気になるんだけど、果たしてこの授業を受けていて恩恵を受けているんかなっていう、今の状況で、環境で（教師 A：中学校）
習熟度の低い学習者への配慮	英語で授業を行うこと、活動中心で授業を行うことは、上位の学習者にはチャレンジングで動機づけになる可能性があるが、下位の学習者にはつらいのではないかという懸念をしている。そういった下位の学習者に対しての配慮を考えると、英語の授業を英語でという選択肢から遠ざかって行っているように思われる。	そういう活動中心の授業になると、下のクラスの子って学力的に厳しい子はけっこうつらいと思う。 多分、中学校からその英語の拒否反応もってるような子らもいるやろうし、上の子らはそういうコミュニケーション型の授業はチャレンジングやし刺激的やし、いいと思うけど、下のクラスの子も、中には辛い子もいると思うけど（教師 F：高校）

単語、英文が正しく書けない	コミュニケーションは授業中に取り組んでいるが、実際に書かせてみると書けないことが多く驚いているようである。	1年生に関してはあまりにも勉強ができないことに気づき、 <u>ようしゃべる、よう反応する、こっちの望むコミュニケーションしてくれる、でも書けない。</u> (教師E：中学校)
英語表出への抵抗感	英語で表出させること自体に苦勞している	はい。そうですね、苦勞とかって言うとやっぱりその、あまり正直言って、英語が得意だって思っている生徒が多くないという感じがあります。生徒自体に。それから海外に関心があるとかそういう意欲の面でも英語使いたいとかいう生徒もまあ層的にそんなにもともと多くない、あるいは活動なんかも活発にやろうというような(風ではなく)、どちらかというとおとなしいタイプの生徒が多いので、 <u>その雰囲気ってというか、(英語を)使わせるっていう、こままず、苦勞するっていうか、使わせてその内容を挙げていくとかいう以前に、使わせるのにまた苦勞しているっていうところがあります。</u> (教師D：高校)
説明なしでは不安	日本語で説明しないと学習者は「わかった」という実感を得にくいのではないかと解釈した。また、教師も理解させたという気にならないということがうかがえた。	<u>全部できたらいいのになって思う。英語で。文法の説明以外やけど。やっぱり(生徒が)分からないんですよ。日本語の説明がないと、やっぱり生徒も理解した気にならないし、こっちも分かってるのかなって不安になる。</u> でもまあ普段やっているオーラルイントロダクションとか指示とかは、そんなコアな部分じゃないので、教えなあかんこと。そんなに心配はしていないっていうか。少しでもこういうところだけでも触れてくれたらいいなっていう気持ちでやっているの。(教師B：高校)
時間がない	コミュニケーション活動を入れたいが、時間が取れない。	1レッスンで何パートかあるじゃないですか。で、まあ時間がいつもギリギリなんで中々取れないですけど、時間があればこのパートでこれやろうっていうのを一つ何か考えて、活動っていうんですかね、コミュニケーション活動じゃないけど。ゆったりするときもあります。 <u>でもまあ大体 Q&A と True or False で終わっちゃうことが多いですね。本当のことを言うと。そこまで終わらせたくはないんですけど。今度は meaning に当ててやっていきたいんですけど。もう本文の内容をさらって Q&A やるだけでいっぱいいっぱいです。</u> (教師C：高校)

付録：各説明概念の定義と具体例：教師が行っている工夫（研究課題 2）

概念名	定義	具体例（ヴァリエーション）
易しい教科書に変更	英文が平易な教科書に変更することで、英文内容の理解にかける時間を軽減し、空いた時間に活動を取り入れようとする。	あとはまあコミュニケーションなっていうのができないっていうことで、まああまりレベル的にはどうか分からないですけど、 <u>まあちょっと****（教科書名）の方が文が簡潔でまあちょっと内容的に分かりやすいんじゃないかっていうことで、（コミュニケーション英語）IもIIも****に変えます。</u> （教師 C：高校）
授業外の課題	授業外でも定期的にメッセージ中心の活動や課題を出す。	あとは、たとえば、必ず、各チャプターかレッスンあるよね。 <u>その後にえーっと、必ずエッセイライティングを入れてます。</u> （教師 F：高校）
メッセージ中心の課題をテストに出題する	授業で取り組んだメッセージ中心の課題、英語で表出を求められるような課題を定期試験に出題する。	F： <u>それだってそのテストに出すから。</u> 面接者：え、そのエッセイのトピックをってことですか？ F： <u>はい。全く同じ。</u> でまあ、こっちが直すことで、まあテストの前に結構まあ、ほぼ生徒（エッセイの文章）結構暗記するんですけど。けどまあ正しい形でそうやって暗記してくれたらそのあと使えるからいいかなあって。（教師 F：高校）
英語での授業を継続する	具体例は指示についての言及が多いが、指示が英語でできる要因の1つに「もうわかっている内容」ということが挙げられている。英語で行う場面がある程度決めて継続していくことで、学習者が慣れていけば英語で授業をすることも少しずつ可能になっていくのではないだろうか。	いきなり 3 年生の授業に入った時に、ものすごいアレルギー反応を示して、それはもう、ボソボソじゃなくて日本語でしゃべってやっていうような。わからーんって。でもこう、でも 1 年間****でやった体（てい）もあったので、（日本語で授業をするのは）絶対嫌やと思って、いや、そこは英語の授業やで英語でやるって自分らも我慢して、先生もできるだけシンプルにするで、がんばるぞって言って <u>3 ヶ月もするとそんな文句も出ることなくなって、当たり前になったかなあと。</u> （教師 A：中学校）
ここだけは絶対に英語という場面を作る	ここだけは絶対に英語を使おうという信念をもつことの重要性。	割合は、個人的には 7 割くらい。で、学年を通しては、学校全体の取り組みとしてどうしても英語で授業を皆さんにしてほしいという思いが、学年を統一してアクティビティを作っているプレリーディング、ミッドリーディング、ポストリーディング活動で意見交換をえっとスピーキングライティングなどで行っています。で、 <u>その時の指示出しなどすべて英語でやってくださいってことで統一しています。</u> （教師 G：高校）
いきなり英問英答を始めない	英語で質問をして、英語で答えてもらうことを前提に「英語の授業は英語で」をやりはじめると、学習者がついてこれない。その対策の1つとして、まず最初に日本語と英語を併用して発問し、何を答えるべきか学習者が把握したところで日本語の支援をとる。ステップを踏んで英語でのインタラクションにつなげる。	えっと、はじめっからしようと思わずに、はじめは例えば今日 1 年生の授業で、Whose racket is this?とか Whose door is this?とかやったんですけど、そのときに理由も英語で言って欲しいんですね。I think it's Mr. ****'s. I think he likes One Piece とか言って欲しいんですけど、 <u>しょっぱなから OK please tell the reason in English っ て言ったところで、子供は言えないんですよ。</u> で、I think it's Ms. ****'s. っ て。Why do you think so? っ て言っても子供らは why とか、do you think so の流れがわからなかったら、え？って戸惑うので、 <u>え、なんでそう思うの？って一回（日本語で）言うんですよ。（中略）なんでそう思うのって言うと子供達は、誰々先生は『ワンピース』好きやと思うから、とか言うんですよ。Oh you can say in English、そう、私は思う</u>

		<p>って何ていうの？I think うん。で、why do you think so?なんでそう思うの?っていうのははじめ一人二人言っておくと3人目4人目からはなんでそう思うのって(日本語で)言わなくても why do you think so?で理由聞いているなってわかるじゃないですか。だから、変な話、子供に定着するまではちょこちょこ日本語を入れながらやっていますよね。(中略) このフレーズってこういう意味なんやなあっていうのを定着するまで、時間かけてあげればいいと思うんですよね。</p> <p>(教師E：中学校)</p>
日本語の発言を英語に直していく	学習者の日本語での発言を容認する。ただし、日本語で表出した内容は、クラス全体で教師とともにどのように英語で表現できるかを考えていく。	<p>うーん、とりあえず英語で考えてみてということはしますね。それで完全じゃなくていいので、とりあえずキーワードというのでもいいし、<u>ムリと思ったら日本語でもいいから、じゃあ、「この日本語出てきたけど、これ英語でなら何という？」</u>ということをおもひで作ったりということはします。(教師I：高校)</p>
形式指導(1) こまめな確認	書けないことに気づいてからは、英文を書かせるテストを導入したり、自主学習の方法を指導したりすることで対処しているようである。また、書かせるような作業を入れると学習者の意欲が下がると思いがちだが、あながちそうとも言えないという声もある。	<p>なので私は1年生は、<u>もうそれこそ何年か前に戻るかじゃないですけど、5文テスト、in the next class you have 5文テストって言って、でも教科書のこの文とこの文とこの文とこの文とこの文を出すってはっきり言うんです。</u>(教師E：中学校)</p>
形式指導(2) 授業中の形式指導	「英語の授業は英語で」と言いつつも、形式的な練習は必要だと思っていることがうかがえる。割り切って、形式のための練習をする場面を作ること、そしてそういう場面と作ったからこそ、反対に、割り切って英語で授業をする場面も作る。	<p>僕の頭の中ではメッセージがある、それを伝えるのが大事。だからメッセージ重視。けど、<u>正しい形で言わないと正しく伝わらないからもちろん形式も重視する。けど、メッセージありきっていう頭。</u>じゃないと、いわゆる、夢を書きなさいだと、I want to be an English teacher が出てきちゃうなって思うから。(教師A：中学校)</p>
形式指導(3) 授業ごとに目的を変える	「英語の授業は英語で」と言いつつも、形式的な練習は必要だと思っていることがうかがえる。割り切って、形式のための練習をする場面を作ること、そしてそういう場面と作ったからこそ、反対に、割り切って英語で授業をする場面も作る。高校であれば、コミュニケーション英語と英語表現という教科を超えてバランスを考えることも重要である。	<p>F：あとはその<u>残りの2時間はまあ本当にちょっと文法みたいなテキスト使ってやっていますけど。</u> 面接者：そっちはもういわゆる、どんな感じでやっているんですか？ F：そっちはもう日本語ですね。 面接者：日本語の。ガチ塾みたいな。 F：ガチ塾でもないっすけど(談笑) そんな感じですね。<u>だからこそ。4時間はもうコミュニケーション中心。で、文法もなるべくくどくどしない。残りの2時間があるから。</u>(中略) で、だからもう本当に英コミュの3時間は8割英語。さっきも言ったけどやるし、ALTの先生の授業は全部英語でやるし。(教師F：高校)</p>

* 分析ワークシートのフルバージョンをご希望の方は、ご連絡いただければ PDF ファイルでお渡しします(藤田：takuro619@gmail.com)